



北里大学同窓会栃木県支部

ニュース No.23

「馬淵清資名誉教授公開講演会」

「Relay for Life Japan 2017 Tochigi」

「福島競馬観戦ツアー」

2017年5月1日発行



北里大学同窓会栃木

栃木県支部ホームページQRコードです。
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

2017年 栃木県支部 公開講演会のお知らせ

栃木県支部 支部長 滝 龍雄

日時 平成29年7月2日(日)

14:00~16:00 (受付開始 13:30)

会場 栃木県総合文化センター 特別会議室

講師 馬淵清資(まぶち きよし)

北里大学名誉教授



懇親会 平成29年7月2日(日) 17:00~

東武ホテルグランデ 2F 中華料理「竹園」

〒320-0033 栃木県宇都宮市本町5-12

栃木県総合文化センターより徒歩5分

会費 30歳未満 2,000円、40歳未満 3,000円

40~70歳 5,000円、70歳以上 3,000円

公開講演会、懇親会の出欠は、同封の返信用はがき

に必要事項を記入の上、5月末日までにご投函下さい。

公開講演会場は150席です。公開講演会として一般の方も先着順に申込みを受け付けますが、支部会員には予め席を確保してあります。

講演会・懇親会にご家族、ご友人を同伴される場合には、返信用はがきに人数、お名前を必ず記載して下さい。

支部会員には、当日受付用のはがきは送られません。支部会員受付でご確認ください。

懇親会の会費は懇親会会場受付でお払いください。年齢は懇親会受付で自己申告して下さい。

バナナの皮から広がる生命科学の香り 馬淵 清資

学生時代から一貫して人工関節を研究してきました。その中でヒトや動物の関節の仕組みについても調べてきました。関節の滑りの良さは軟骨からしみ出す関節液に支えられていることから、バナナの皮の滑りのよさを連想させると記述したことがありました。それがバナナの皮の世界に足を踏み入れた切っ掛けです。

バナナの皮の滑りは世界中に知られたありふれた事実なので、どこかに摩擦測定の結果ぐらい公表されているだろうと、軽く考えていました。しかし、調べてみると、滑った事実はあっても、バナナの皮の滑りの仕組みに科学的に取り組んだ研究は、見つかりませんでした。自分で測ってみよう。そう思い立ったのは、十年ほど前のことです。

幸い、関節機能を調べる目的で導入した摩擦測定装置が実験室に豊富にありますので、それを使えば、踏んだ瞬間の摩擦を測定できます。数十回の測定の平均の結果、靴と床材料の間の摩擦係数は0.412、そこにバナナの皮を挟むと0.066に低下しました。つまり約6倍滑りやすくなることがわかりました。

バナナの皮が滑ることを客観的なデータとしたという意味で、新規性は十分でした。しかし、結果がグラフ1枚では、論文が書けません。そこで、いくつかの実験を追加しました。表裏を裏返すと摩擦が倍になること。乾燥させると全く滑らなくなること。ミカン、リンゴなど他の果物の皮よりよく滑ることなどを明らかにしました。これらのデータを基に、滑りの良さを支える仕組みを考察して学会論文にまとめることができました。

その業績で、イグ・ノーベル賞という、若干怪しいけれど世界的に有名な賞を頂くことができました。実は、バナナの皮で滑るのは、世界共通のギャグネタですから、論文が上梓された時点で、受賞を確信していました。

受賞後、加熱した取材の中で「バナナの皮の滑りの

研究成果は、何の役に立ちますか」という質問を多くの方から頂きました。実用性のない研究に対しては、私自身、日頃は批判的な意見を述べておりますので、これが、非常に厳しかった。それで用意した回答は、バナナの皮の滑りをよくする仕組みの主体である粘液の効果は、生体関節と共通である。そのことは、人工関節に流体潤滑を構築する必要性を裏付けたという点で役に立つ。というものでした。

一方、「科学は、研究テーマが面白ければ、価値がある。その意味で、バナナの皮の滑りという日常のありふれたことがらの中から、摩擦係数を測定するという新しい発見をしたことは、科学する姿勢として評価できる」という好意的な意見も頂きました。私自身、バナナの皮の滑りと生体関節の潤滑というかけ離れた二つの現象に、共通の仕組みが隠されているということを知ったとき、これは面白いと感じていました。そして、バナナの皮と関節、一見かけ離れた両者は、生命という枠の中にあること、そして、滑りの主役である粘液の成分、高分子物質は、生命体の遺伝子にしか生み出せない物質であることに思い至りました。

粘性のある液体は、潤滑油などの工業用材料も含めて、すべて高分子物質であり有機物です。そして、有機物の合成は、生命にのみ可能な技です。その延長で科学技術には、物質を創生する力がないという、いわば、科学技術の限界についても思い至りました。

粘性のある液体は、潤滑油などの工業用材料も含めてすべて高分子物質であり有機物です。そして、有機物の合成は、生命にのみ可能な技です。その延長で、科学技術には、物質を創生する力がないという、いわば、科学技術の限界についても思い至りました。

これまで、科学技術の軸足は専ら進歩発展にあって、より速く、より高くといったオリンピックのような方向性を向いてきました。しかし、それを支えていたエネルギーの大量消費が、気候変動や砂漠化など環境負荷を増大させ、昨今の地球全体に危機的状況を発生させています。この問題の解決には、軸足の方向性の見直しが必要です。その点、医療技術は、生命健康の維持という方向の軸足を有しているのです、価値の高い選択肢となるはずで

リレー・フォー・ライフ

9月16日(土)~17日(日) 壬生町総合公園

栃木県での開催が第4回目となります **Relay for Life 2017 in Tochigi (RFL2017)** が今年も実施されます。RFL2017には、趣旨に賛同した県内の多く医療関係、福祉関係、教育機関、更には一般の参加者が参集し、がん患者の闘病談、最新のがんの治療法など様々な企画を楽しめます。支部では今年も参加します。皆さん一緒に参加しましょう。

申込みは後程お知らせします。

福島競馬場観戦ツアー

11月11日(土) 福島競馬場

獣医学部同窓会(紅緑会)栃木県支部との共催で実施している福島競馬場観戦ツアーを今年も11月11日(土)に日帰りで開催します。美しい馬の走る姿を眺めるもよし、自分の運を掛けるもよし。

参加の申込みは後程お知らせします。

近況です(敬称略;新年会の返信はがきに記載)

高橋紀子(1996HH)

ご無沙汰いたしております。先日、済生会の和貝さんとお話しさせていただく機会があり、是非参加したいと思ったのですが、2月の予定がたてこんでおり、残念ながら欠席とさせていただきます。7月の公開講演会には参加できたらと考えております。

不明(宇都宮消印)

昨年は栃木県がんセンターの公開講座に子供達3人と参加しました。オペ室見学、カテーテル実技、放射線室見学と、夢見るDr.候補ちびっこ達と楽しませて頂きました。

酒井麻衣(2008VV)

昨年二人目の子供が生まれ、育児中ですが、年明け再び仕事復帰の予定です(動物愛護)。

いつかは会に参加したいと思っています。

名村 渉(2015MB)

特に変わりなく、元気に過ごしております。11月に富士山マラソンに挑戦しましたが、27kmで足きりされました。今年は完走するぞ~!

福澤英子(1973PP)

昨年は大変お世話になりました。

機会を見つけ、楽しい企画に参加したいとは、考えているのですが...

山口正利(1976PP)、山口直子(1977PP)

支部会には大変お世話になっております。

私事ですが1年8ヶ月前に進行がんを患い全摘手術を受け、現在、経過観察中です。

日頃、支部会に協力できず申し訳なく思っています。今年3月には北里の獣医学部を卒業した息子夫妻が帰ってきますので、我家は、北里OBが4人となります。これからも宜しくお願いします。

元氣になれば、私も活動に加わりたいと思っています。

藤田朋恵(1991MM)

獨協医大に赴任し半年経ちました。

赤羽から通勤しておりますため、電車に乗り遅れないよう注意しています。

河野 健(1992MM)、河野真紀子(1992MM)

いつも栃木支部にご尽力いただき、感謝しております。参加できずにすみません。

小野崎卓子 (1983PP)

2016年は卵巣がんの再発治療に明け、夏で標準治療を一旦中止し、治療中の「がんカテーテル療法」に10月より参加しています。(肝がんでは、先進医療)卵巣がんでの成績は、他のがんに比べて良好で、私も縮小中です。選択肢がひろがっている「がん治療」ですが、選ぶ患者自身の「患者力」も要求される時代に入っていることを感じました。

皆様の御活躍をお祈り致します。

大木美智子 (1979PP)

お世話になっています。新年会いつも参加できず、申し訳ありません。支部ニュースは楽しく読んでいます。今回もおもしろかったし、勉強にもなりました。「Dr.滝のつぶやき」コーナーなんて企画があったらいいのにと思っています。

お忙しいとは思いますが、宜しくお願いします。

7/2は参加したいと思っています。

浅野敏一 (1992PT)

大学卒業後、明治製薬(株)のMRを経て、現在鹿沼市のけんこう薬局みどり店で働いています。

学生時代は文化会北釣会に所属し、毎週末相模原キャンパスに通い、釣りや宴会をしてきましたが、今もその頃と変わらず、海釣りに出掛けては釣った魚をつまみに一杯飲むことを楽しみにしています。

支部のみなさん、これから宜しくお願いします。

西浦知子 (旧姓野口) (2000VZ)

いつもお世話になっております。連絡が遅くなり申し訳ありません。昨年長野県に引っ越しました。小山の実家へは時々帰りますが、行事の参加は難しいと思います。メールアドレスは同じですので、メールにて会の様子が知れたらとは思っています。よろしく願い致します。

東海林治三郎 (1966HH)

東京都臨床検査技師会(都臨技)から1月に功労賞をもらいました。1966年に技師会に入り、会費を50年間納めた。1975年から断続的に理事、監事、役員推せん委員等を13年ぐらゐ勤めた。微生物、臨床化学、超音波、血液、遺伝子等の研修会に今でも出席し、ボケ予防になっている。

新年会出席できずすみません。

桃原茂男 (1975PT)

H.12~H.27まで栃木市に単身赴任。週に2回横浜に帰り子供と遊び、娘の結婚がH27.11月にあり、体力的に無理になってくる。H28.1月~栃木市へ移住。知識にはハングリー。年5回の北里大での勉強会へ。H.30~は、週に3回のアルバイトを考えています。

岸田さな江 (NN院)

いつもありがとうございます。今後ともよろしく願い致します。



県立がんセンター 磯 恵美子

今回は2017年2月12日(日)、栃木県立がんセンター幹事で開催されました。高橋良さん、中野真希さんの2人の若者に「おんぶにだっこ」で何とかおそらく現役最後の幹事を無事務めることが出来ました。

参加者も多く、イベントのビンゴで大いに盛り上がった時間でした。

若者幹事2人が積極的に多くの同窓生に声をかけてくれたので、初参加の方もいらっしやいました。また、今回は若者幹事2人の提案により、参加会費も年齢で異なる額にし、若者に優しい金額を設定することが出来ました。



「年の功より亀の甲」という諺がありますが、最近私は専ら「老いては子に従え」(笑)です。

今回の新年会の「ビンゴゲーム」も私の固い頭では思いつかないアイデアが沢山でした。

① カードを選んで「数」を発表していく

② ビンゴの人は景品をくじ引きする等、

ちょっとやそつとの運では欲しい物をゲットできない?それでいて誰にでも等しいチャンスがある、みたいな...夢のあるビンゴゲームした。

今後は参加者に没頭するのみ!です。今回幹事を務めて感じたことですが、幹事はなかなか他の参加者と談笑したり、お料理を味わう時間がないなあ...です。

2時間飲み放題コースもいいですが、これからは3時間飲み放題コースが望ましいかも知れませんね。

今回は参加して下さった皆様と2人の若者幹事に感謝の気持ちでいっぱいです。

残念ながら今回参加できなかった皆様、次回以降一緒に参加しましょう!



栃木県立がんセンター 高橋 良

今年の新年会は30人を越える参加者が集まり、栃木の夜に会話の花を咲かせました。2時間という時間でしたが楽しい時間はすぐに過ぎてしまいうもので、

終わってみると本当にあつという間の新年会だったと感じています。この新年会は昨年7月某日、磯さんより集合の連絡がありこの企画が始動しました。日程や場所を決めアトラクションについて作戦会議を行い、無事に当日を迎えることができたと思います。当日は僕のつたない司会にお付き合いいただきありがとうございました。景品や名札等準備していただいた滝先生や、みなさんの協力もあり無事にこの会を執り行うことができたと思います。

この原稿を書くにあたり支部のHPを見ると2012年からこの新年会は開催されているようです。今回の新年会で第6回目を迎えているようです。栃木県支部の行事の一つとして、さらにみなさまの毎年の予定として定着してきたのではないかと思います。また来年の新年会でもみなさまと楽しいひとときを過ごしたいと思います。それを楽しみに今年1年間がんばって仕事をしていきたいと思います。



最後に出席いただいた皆様を始め、サポートしていただいた皆様に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



栃木県立がんセンター 中野真希

今年は私たち栃木県立がんセンターが幹事を務め、幹事の特権を利用して(笑)、年代別に料金設定をしたところ、若手の参加者も多く、非常に楽しい一時を過ごすことが出来ました。お料理もお酒も美味しく、ビンゴゲームも、豪華北里大学グッズをかけて非常に盛り上がり、あつという間の2時間でした。



終わるのが名残惜しく、そのままのお店で二次会を

行い、様々な方と交流出来て本当に楽しかったです。

幹事と言いながら、自分も思いっきり楽しみ、至らない点がありましたこと、ご容赦いただければ幸いです。また、様々なイベントで皆様とお会い出来るのを楽しみにしています。参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。



2006 薬学卒 北岡伸夫

2006 年度北里大学薬学部製薬学科を卒業しました北岡伸夫と申します。大学時代は薬学部の生物分子設計学教室に所属し、たんぱく質の構造解析のプログラムの研究をテーマとして勉強しておりました。

今回北里大学同門会栃木県支部の新年会に参加させて頂き、まことにありがとうございました。2007年に大学を卒業してから、親しい友人以外の同門の方とお話する機会がなく、今回の新年会はとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。大学を卒業してから10年が経ち、相模原の校舎の話から、白金の校舎の話など大学時代を振り返った話が出来ました。先輩方が在学していた時と私がいた時でも大分変化があり、現在は更に変化があると聞いています。こういった話をする中で、思い出に浸りながら自分の成長を振り返る時間を持てたのはとても貴重な時間を過ごせました。



幹事と言いながら、自分も思いっきり楽しみ、至らない点がありましたこと、ご容赦いただければ幸いです。また、様々なイベントで皆様とお会い出来るのを楽しみにしています。参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。

なかなか世代を超えて交流をする機会が無く、先輩方のお話を聞いたことは大変参考になりました。皆さんとてもお元気で、精力的に活動しておられるので、私も負けてられないという思いが湧いて参りました。

また、薬学部以外の方との交流の機会をいただけたのも、大変貴重な経験となりました。どうしても、薬学部は2年時から校舎の場所も白金になり、他の学部の方との交流が減ってしまいます。また、仕事も製薬

メーカー、病院薬剤師、薬局とかなり限定されてしま
いますので、他の学部の方のまったく違う仕事の話は
とても興味が持てました。是非また今回お話できな
かった方とも話しをする機会を頂ければと思います。

同門会として様々な活動をされていることを知れ
たのも良かったです。リレー・フォー・ライフの参加
は例年会社でも行なっているのです、またその際は宜し
くお願い致します。

卒業してから、8年間東京で、製薬メーカーの営業
として医療用医薬品の販売活動をしており、2年前に
栃木県に転勤で参りました。元々東京出身ということ
もあり、栃木県には縁もありませんが、今回の同門会
の集まりに参加させて頂き、同門の諸先輩方が栃木県
で大変多く、ご活躍されていることを知れたのは心強
い限りです。転勤が多い職種なのでいつまで、栃木県
に居れるか分かりませんが、今後もお声掛けいただ
けますと幸いです。仕事柄、病院や薬局に出入りして
おりますので皆様とお会いすることもあるかと思い
ます。その際は気軽に声掛けいただければと思います。

今後とも宜しくお願い致します。ありがとうございました。

横浜から参加して

桃原茂男

2016年1月に生まれ育った横浜を離れ、16年間単
身赴任している栃木市に移住しました。横浜での同窓
会には数回参加していました。栃木県での開催は同窓
会報で読み、知っていました。機会があれば一度は参
加したいと常々思っていたところ、幸いに支部長滝龍
雄氏のご厚意により初参加となりました。どのような
先輩・同輩・後輩の方々が参加しているのかの想いで
会場に向かい、迷いながらも着きました。



談笑の合間に恒例の“ビンゴゲーム”が始まりまし
た。次々と同窓の方々が「ビンゴ!」、「ビンゴ!」、
「ビンゴ!」と手を上げ、それぞれの景品をゲットし
ていきました。景品も余すところ二つとなり、参加賞
はどんな物かと考えつつ番号を聞いていました。と、
1つの番号が読み上げられました。それがなんと自分

のビンゴの番号でした。箱に右手を入れ小さな紙を取
り、広げてみると1番。誰もが欲しが「大村智博士
ノーベル賞受賞記念切手シール」でした。（“残り物
には福がある”同窓の声が耳に入ってきました。）

その後も楽しい会話、情報で懇談し、最後にロビー
で全員がおだやかな微笑みにあふれる記念写真を撮
りました。

Three Cups of Tea

1杯目はよそ者。2杯目はお客。3杯目は家族。
付) 横浜との週2回の往復が無くなり、その時間を有
意義に過ごしています。

読書:水滸伝*人体600万年史*プラタモリ・・・

映画:奇跡の教室*ザ・コンサルタント*奇蹟がく
れた数式*I, Daniel Blake (私はダニエル・ブレイ
ク)・・・

栃木観光(友人、知人のガイド):日光東照宮*華
厳滝*中禅寺湖*日光江戸村*霧降高原*鬼怒川温
泉*龍王峡*大谷資料館*益子焼*足利学校*あし
かがフラワー・パーク*ツインリンクもてぎ・・・

北里大学(白金)には知識の修得で年に5回、朝6
時発のスペーシアで行き、その都度校舎の変遷を垣間
見て楽しんでいきます。

栃木県支部2017年新年会に参加して

石原寛明

自治医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線
技師の石原寛明と申します。2012年に北里大学 医療
衛生学部 医療工学科 診療放射線技術科学専攻を卒
業し、地元であるここ栃木県に帰ってきて就職をした
ため、2017年度で技師になって6年目となります。

私は1990年に自治医科大学で生まれ、祇園小学校、
南河内第二中学校、栃木高校と、北里大学に進学する
まで栃木県で育ち、自分が生まれ幼いころからずっと
見てきた念願の自治医科大学に就職することが出来
ました。今はその恩返しのため、自治医大の職員
として地元の地域医療に貢献しようと邁進しており
ます。

私が北里大学を、そして診療放射線技師という道
を選んだ理由には祖父の存在が大きく影響しています。
かれこれ14~5年前に他界してしまいましたが、祖父
は生前、足利赤十字病院で放射線技師をしており、技
師長や栃木県の放射線技師会の会長を務める誰から
も信頼される立派な自慢の祖父でした。大学受験を控
え進学先を決めなくてはならない時期が迫り、放射線
技師の勉強を専門に学べる大学があることを知り、自
分の中で憧れだった祖父と同じ放射線技師という職
業に就きたいという思いがよりいっそう強まりました。
いざ受験となり、北里大学を含めいくつか放射線
専門の学科を持つ大学を受けましたが、一度栃木を離
れてみたいという思いから北里大学に決めました。栃

木を離れたことで地元愛を再確認できたことや、たくさんの良い仲間ができたこと、北里大学の良い環境など、今でもその時の選択は正しかったと思っています。

そして今回、そんな北里大学の、そして慣れ親しんだ地元での同窓会の新年会に参加できたことを非常に光栄に思います。私の職場では北里出身の技師は3名しかおらず、他大学出身の技師が多いのですが、今回の新年会に参加し就職以降感じることの少なくなっていた北里の空気に触れることが出来、どこか懐かしさ、そして居心地の良さを感じました。滝先生をはじめ、たくさんの先輩方と接することができ、とてもうれしく思います。終始和やかでとても楽しく、非常に充実した時間でした。



さて、私事ではありますが、おとし2015年に大学時代から付き合っていた北里出身の看護師の妻と結婚をいたしました。また、私の妹も北里の薬学部を卒業し、2017年度から同じ自治医大で薬剤師として勤務しています。ぜひ、今後の栃木支部の同窓会には妻、妹ともども参加させていただければ光栄です。

今後とも、積極的に同窓会のイベントに参加していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

私の近況です

平成22年獣医学科卒 阿部祥次

3月まで、私は栃木県県央家畜保健衛生所家畜衛生研究部の病理研究室に在席しており、県内で発生した死亡家畜の原因究明と調査研究を行っていました。

家畜の死亡は生産農場にとって損害に直結し、中には甚大な被害をもたらす病気もあります。また、その原因を探ることで様々な改善点が見えてくるため、疾病の蔓延防止や生産性の向上に大きく関わる重要な仕事と理解しています。

調査研究は豚に関することを主に担当しており、平成26年に大流行し養豚農場に大きな打撃を与えた豚流行性下痢等について調査し、その成果を学会発表や論文投稿等により情報発信も行っています。責任が重く、うまくいくことばかりではありませんが、この仕事にやりがいを感じ日々楽しく働いております。

私生活では、日々成長していく娘に驚きと感動を受

けながら家族仲良く暮らしています。冬になりましたので、趣味のスノーボードも励みたいと思います。



地方独立行政法人栃木県立がんセンター 磯 恵美子

昨年4月1日、栃木県立がんセンターが独立行政法人となり、多くの職員の身分は栃木県職員（公務員）から独立行政法人の職員となった。前年までに職員の意向調査があり、本人の意向が優先され、昨年度からは県職員を退職して独立行政法人になる身分は県職員のまま、派遣職員となる独立行政法人に採用される3つのタイプで成り立って業務を行っているところである。

独法後2年目となる今年度は薬剤部で2名の増員があり、新卒者（女性2名。1名は後輩）が採用されたが、私は昨年度、彼女達の採用試験に関わった。

まず、病院見学を申し込んでくれただけでも嬉しい。1日足らず（日によっては数時間）の病院見学後に、採用試験を受けてくれるともう、十分過ぎるくらい嬉しく、ハイテンションになってしまう。

他の施設や企業との掛け持ち受験であろうがなからうが「ここで働きたい！」という意志を持って受験をする気持ちが本当に嬉しい。そして受験者（採用される方）の期待に応えられる、さらに良い職場であり続けたい、と私達職員の励みになる。

一次試験合格後、二次試験（面接）となる。面接官3名で行う。「面接では分からないこと」もあると思うが「面接で分かること」も多く、面接試験は大切だと実感している。

そして、2名は国家試験も優秀な成績で合格し、4月1日（実質4月3日）から職員となった。

私達の頃と違って（同級生の皆様、ごめんなさい。）、ここ数十年（？）北里大学薬学部は偏差値トップクラスの難関である。その同窓生が「ここで働きたい！」と申してくれただけでも本当にすごい！ことなのだが、彼女は優秀なだけでなく、本当に気配りが出来る頑張り屋さんである。

これも縁、運命なのだろうが、私は4月1日が本当に待ち遠しかった。そして、自分は本当に強運の持ち主だと改めて実感した。

今後は彼女が描いている将来の目標、夢が実現できるように、そして「信頼されて温かい薬剤師」に育つよう、職場の母として精一杯見守って行きたい。

編集後記：2月の支部新年会も6回を数え、順調に参加する会員の輪が広がってきました。来る7月には馬淵先生の公開講演会です。楽しいお話以外にも、趣味の楽器演奏などがあるかもしれません。現役の学生諸君も勉強に励み、国家試験の合格率も今年は全体的に昨年よりも上昇しました。混迷する世の中ですが、支部会ニュースを見て、ホッとして頂ければ幸いです。

滝 龍雄